

介護ニュース・ダイジェスト

11月1日～11月30日

介護に関する政府機関や民間団体の動きを掲載しています。詳細は厚労省や各団体のHPなどをご覧ください。

■介護休業給付金の増額を検討(11月2日)

厚労省は労働政策審議会で「介護休業給付金」の給付率(現行は賃金の40%)を引き上げる方針を明らかにした。安倍政権の「1億総活躍社会実現」の一環。

■報酬改定で協力要請(11月5日)

厚労省は都道府県などに対し、27年度介護報酬改定の検証・研究調査への協力を要請した。▽介護保険施設での医療ニーズへの対応▽認知症高齢者へのサービス提供▽介護保険サービスの質の評価など7項目。

■ロボット歩行器 保険適用へ(11月9日)

厚労省の介護保険福祉用具・住宅改修評価検討会は、自動制御で歩行を助ける高齢者向けの歩行器を介護保険適用の福祉用具に加えることを了承した。「ロボット新戦略」の一環。

■介護資格試験を年2回以上に(11月11日)

経済財政諮問会議の民間委員は政府目標の「GDP600億円」達成に向け、介護職員を確保するためケアマネジャーや介護福祉士などの資格試験を年2回以上実施するよう提言した。

■特養の賃貸運営を容認へ(11月12日)

塩崎厚労相は1億総活躍国民会議で「介護離職ゼロ」の厚労省施策として▽特養を含む介護サービスの整備を前倒し、2020年代初頭までに6万人分を上乗せして40万人分まで引き上げる▽賃貸でも特養の運用を認める一などを示した。

■入所者転落で改善勧告(11月13日)

川崎市のS・アミーユ川崎幸町(積和サポートシステム)で入所者3人が転落死した問題で厚労省は親会社のメッセージ(岡山市)に対し、介護保険法に基づく

業務改善を勧告した。また川崎市は積和サポートシステムに介護保険請求を3カ月停止する行政処分を通知。東京都も業務改善を勧告した。

■自治体に速やかな監査促す(11月13日)

厚労省は高齢者虐待防止のため介護保険施設への予告なしの監査などを速やかに実施することや、事件のあった施設への優先的な指導・監査を都道府県などに促す通知を出した。また同日、有料老人ホームへの定期的な立ち入りなどを実施するよう通知した。

■経営実調見直し案を議論(11月16日)

介護給付費分科会・介護事業経営調査委員会は、厚労省が示した介護事業経営実態調査等の見直し案と消費税再引き上げ(10%)に対する取り組み案を承認し、分科会へ報告することを決めた。

実調の見直し案は①▽「実態調査」は1年分・改定後2年目のデータを把握する▽「概況調査」は改定前後2年分のデータを把握する②キャッシュフロー(長期借入金返済支出のみ)を把握する③介護報酬と介護報酬外の切り分けは今後調査研究する④「国庫補助金等特別積立金取崩額」は「介護事業収益」から「介護事業費用」へ移行する一など。

消費税の対応は①8%対応時と同様、基本単位数はサービスの人件費、その他の非課税品目を除いた課税割合を算出して上乗せする・課税費用の割合の大きい加算は課税費用に係る上乗せする・小さい加算は基本単位数への上乗せ時に対応する②設備投資の状況は関係団体のヒアリングを実施して把握する③28年度概況調査において食費は調理員等に関する費用および材料費等、居住費は減価償却費や光熱水費それぞれの平均的な費用額を把握しておく一など。

■段位取得の負担軽減へ(11月18日)

第2回介護プロフェッショナルキャリアア段位制度検討会は「評価項目が多く負担が大きすぎる」として事務的な負担の軽減を指摘した。

担が大きすぎる」として事務的な負担の軽減を指摘した。

■2割負担を建議(11月24日)

財務省の財政制度等審議会は、28年度予算の編成等に関する建議の中で、厚労省が概算要求している社会保障費の自然増分を6700億円から5000億円へ圧縮するよう求めた。介護保険関連では①段階的な原則2割負担②福祉用具貸与や生活援助の給付を除外し、地域支援事業に移行③要介護認定の地域差の解消などを要求。

■国有地の賃料半額に(11月24日)

財務省は「介護離職ゼロ」の一環として、社会福祉法人に限り、国有地の賃料を半額にして貸し出す方針を明らかにした。

■特養の増床を提案(11月24日)

全国老人福祉施設協議会は「介護離職ゼロ」の緊急対策として50名以下(30名除く)の特養の規模を80～100名規模に増床するよう提案した。

■実調見直しを了承(11月24日)

第125回介護給付費分科会は介護事業経営調査委員会がまとめた介護事業経営実態調査見直し案(11月16日の委員会記事を参照)を大筋で了承した。ただし、キャッシュフローの把握については「医療経営実態調査との整合性が必要」と指摘し、委員会で再検討する。

■50万人分の介護サービスを整備(11月26日)

政府は1億総活躍社会・緊急対策を公表した。「介護離職ゼロ」関係では①介護施設やサ高住など50万人分の追加整備②介護休業の分割取得と給付水準引き上げの検討一など。

■2タイプの新病床を提示(11月27日)

厚労省は第5回療養病床の在り方等に関する検討会で、29年度末廃止予定の介護療養病床の新類型として「医療を内包した施設類型」と「医療を外から提供する、住まいと医療機関の併設類型」の2タイプを示した。厚労省は次回、骨子案を提示する。

ズバリ回答！ 人事・労務のお悩み

◎マイナンバーどう進めたら？

マイナンバー制度が始まりました。なにをどう進めればよいのか正直なところわかりません。また、「漏洩」があると厳しい刑罰があるとききます。今後どのようにすすめるべきか教えてください。

【今月の相談内容】

①マイナンバーは目的外利用ができないこと↓社会保障、税分野、災害対策
②対象は、職員と利用者、外部講師・顧問弁護士・顧問社労士・顧問会計士等、不動産賃貸にかかる持ち主が該当します。このうち、利用者については、社会保険の分野で該当しますので、いまのところ平成29年からとなりますが、既に要介護認定等の様式がマイナンバー用に変更されています。これについては所轄にご確認ください。一部の保険者においては、平成28年は任意であると回答を受けています。

③内部規定及びマニュアルを整備し、役割、管理手順を具体的に確認します。
④「漏洩」については、最も軽いもので、「偽りその他不正の手段により個人番号カードを取得した」6ヶ月以下の懲役または50万円以下の罰金で、最も重いもので「個人番号利用事務等に從事する者が、正当な理由なく、特定個人ファイルを提供し4年以下の懲役または200万円以下の罰金または併科」となっています。つまり、役割を決め、ルールに基づく対応を行えば、漏洩の心配はないのです。

会員様専用ページに、事務マニュアルと利用者様用のマニュアルをアップロードしました。事務マニュアルについては、データとしての管理はせずに紙ベースで管理することを想定しています。データ管理する場合は、その規程やマニュアルが必要になります。詳細については、社会保険労務士等とご相談をお勧めします。(監事・社会保険労務士 栗田淳一)

【用語解説】個人情報って？

個人情報保護法において「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であつて、特定の個人を識別できる情報です。個人情報は、本人の氏名、生年月日、連絡先、所属、特定の個人を識別できる音声や映像などがあります。

また、会員番号のような数字や文字で構成されたものであつても、関係者ならばデータベースや台帳で調べることによって他の情報と容易に照合できるのであれば、それも個人を特定できるものとして扱われる必要があります。個人情報の取り扱いで大切なのは、「活用」と「保護」の両面をうまく両立させることです。

今後の予定

□3月8日(火) 14時～16時
推進事業合同会議(品川区きゅりあん)
□3月15日(火) 13時～15時
27年度第3回理事会(大田区産業プラザ)

事務局からのお願い
【支部の活動お知らせください】
【支所の活動お知らせください】
【施設での活動記事募集】
施設での取り組みや行事等のエピソードがありましたら、事務局までお寄せください。
【お問合せ先】045(921)0462
info@suishinkyonet.net
事務局山崎まで。

一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会
第10回 全国研修大会in新潟2016

2015 NIGATA

「まち」、「ひと」、「ケア」で
結ぶ地域づくり
～これまでの10年、これからのトキめく地域を創造する～

平成28年
11月24日(木)～11月25日(金)

会場: ANAクラウンプラザホテル新潟
会長: 田中 政春
(社会福祉法人長岡三古老人福祉会)
実行委員長: 佐藤 真弥
(社会福祉法人河渡の郷福祉会)

今年度最終開催！
平成27年度
ユニットケア研修
お申込受付中！

今年度最終の開催となります！
受講要件を満たしている方であれば、
原則お断りしておりません。ぜひお申込ください！

お申込方法：オンライン申込
本会ホームページ(<http://suishinkyonet.net/>)
「ユニットケア研修」よりお申込ください

会場	日程(座学研修)
福岡 (リファレンス駅東ビル)	平成28年1月20日(水)～22日(木)
東京 (大田区産業プラザPiO)	平成28年1月27日(水)～29日(木)

ユニットケア施設管理者研修 ※平成27年12月20日(日)申込〆切

会場	日程(座学研修)
東京 (大田区産業プラザPiO)	平成28年2月1日(月)～3日(水)
東京 (羽田タートルホール)	

※実地研修施設・日程は募集要項にてご確認ください

連絡先: 一般社団法人 全国個室ユニット型施設推進協議会
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町171-1
TEL: 045-921-0462 FAX: 045-921-0472



個室ユニット推進協ニュース Number 106

1面	全国研修大会 in 宮城・仙台 2015 ウの目タカ目こちら傍聴席
2面	全国研修大会 (分科会) 理事会、支部長会 総務企画広報委員会、介護保険委員会 支部便り【福岡支部】 指導者養成研修修了研修 ユニットリーダー研修、個別ケア研修
3面	施設紹介【サクラレ福祉】新潟県 施設便り【明苑苑】千葉県 施設便り【東雲の丘】沖縄県 取組紹介【みくらの里】静岡県 取組紹介【望洋の郷】宮城県
4面	介護ニュース・ダイジェスト ズバリ回答！人事・労務のお悩み 【用語解説】個人情報って？

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町171-1 TEL: 045-921-0462 / FAX: 045-921-0472

全国研修大会 in 宮城・仙台 2015

◎医療と介護の連携統合力を 高まる個室ユニットの役割

被災地の復興を心から祈念

「医療と介護を連携する統合力」。全国個室ユニット型施設推進協議会（推進協、赤枝雄一会長）は11月24日（火）～25日（水）の2日間、仙台市の江陽グランドホテルで「第9回全国研修大会 in 宮城・仙台 2015」を開催し、会員施設関係者や地元議員ら約600人が参集した。地域包括ケアシステムの構築に向けて医療と介護の連携が叫ばれる中で、認知症対応や看取りの在り方、ユニットケアの重要性などが報告された。また東日本大震災の被害や復興状況を展示ブースが会場前に設けられるなど意義深い大会となった。次期大会は平成28年11月24日（木）、25日（金）、新潟で。

1日目 (11月24日)



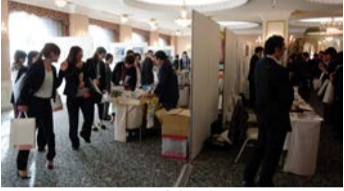
大会会場



佐々木大会長 真壁実行委員長



協賛団体出展



被災出展

【大会宣言】

ノーマライゼーションの3原則（残存機能の活用、人生の継続性の尊重、自己決定の尊重）に基づいた「個別ケア」の考え方を確立し、個室ユニット型特養の介護職としての専門性を高めていきます。
全国個室ユニット型施設推進協議会
「第9回全国研修大会 in 宮城・仙台 2015」



井上公明党幹事長



三浦副知事



若松復興副大臣



奥山仙台市長

次いで三浦秀一宮城県副知事、奥山恵美子仙台市長、井上義久公明党幹事長、若松復興副大臣が来賓挨拶したほか、宮城県議と仙台市議の計約20人（代理含む）が会場などから祝辞を送った。

特別講演

「ゴールデントライアングル

（医療・介護・福祉の地域連携）」(要旨)



大森彌・東京大学名誉教授

ら（働き盛りの）中年の自殺がもたらした増えただろう。ただ、（無理心中など）家族介護の実態を知るために切ない気持ちになる。介護保険を周知し、国民は使って使って使いこなしてほしい。

地域包括ケアシステムの構築が急がれている。医療、介護、福祉のゴールデントライアングルを作ることがシステムの出発点。地域では医療が核となり、治療の後、介護と福祉がしっかりと結びつく。市町村がどう考えるかがとても重要だ。



佐藤高年齢支援課長



赤枝推進協会長

2日目 (11月25日)

午前9時すぎ、本田美和子ジネスト・マレスコッティ研究所日本支部代表（東京医療センター総合内科医長）が「『優しさを伝えるケア技術』ユマニチュード」をテーマに記念講演し、認知症ケアとして世界的に注目されているフランスで、私も厚労省も個室ユニット型を推進している。ただし、低所得者が個室ユニット型にも入りやすくなるよう見直す必要がある。

介護保険制度を取り巻く環境は厳しい。財政難の下で要介護者が増え、重度化が進行している。一定以上の所得者（自己負担）2割負担などが実施されている。（予算編成や介護報酬改定などで）財務省が頑としてウソと言わず、外堀が埋められる」という声があるが、2025年には75歳以上が2000万人を突破する。高齢者の尊厳を保持し、自立支援するには地域包括ケアシステム構築と持続可能性を確保する必要がある。

「おおもり・わたる 東京大学名誉教授、社会保障審議会介護給費分科会前会長、厚生省の「高齢者介護・自立支援システム研究」座長として介護保険制度の創設に寄与した。専門は行政学と地方自治論。「官のシステム」「政権交代と自治の潮流」など著書多数。

推進協の赤枝会長は「安倍政権が『三本の矢』として『介護離職ゼロ』を打ち出したが、介護人材の確保がカギ。我々の意欲を削がない施策の実行を望む」と挨拶した。

この後、大森彌東大名誉教授が「ゴールデントライアングル医療・介護・福祉の地域連携」をテーマに特別講演した。講演要旨は別項に掲載。コーヒープレイクの後、別会場で4つの分科会が行われた。2面に概要を掲載。

基調講演で佐藤守孝厚生労働省高齢者支援課長は「27年度介護報酬がマイナス改定になったことに対して厳しい声を聞くが、介護保険制度を持続可能にするために検討した結果であり、介護職員処遇改善加算やサードス提供加算などで一定の配慮をした。厚労省としては今後ユニット型の整備や個別ケアを推進する。『介護離職ゼロ』の施策として介護施設の増設、介護休業法の改正、都市部の土地規制緩和などに取組む」などと述べた。

発祥のユマニチュードについて実例を挙げて紹介した。

本田氏は「ユマニチュードは哲学に基づいた実践的なケアの方法論。『あなたには、そこに存在している人間です』という哲学から絆ができ、ケアに繋がる。見ると、話すと、触れる、立つの4つが基本。例えば、介護者が正面から患者に近づいて見つめ、優しく話し掛けたり、触れたり、ベッドから起き上げたりするようにしたりする。手を掴むなど強制的なことはいらない。』などと話し、向精神薬の使用が40%減り、救急搬送が58%減らせたというデータを示した。



コーディネーターとコメンテーター



パネリストの皆さん

次いで東日本大震災の復興を願うシンポジウム「3・11（東日本大震災）今後に向けて」が、阪田震一・関東福祉専門学校長の進行で行われ、本田氏がコメンテーターを務めた。パネリストは、菊池里子・齋藤病院看護部長、庄司幸恵・相馬中央病院看護部長、富田きよ子・東北福祉大学准教授、三浦ひとみ・女川町健康福祉課技術参事、山内芳樹・東北地域づくり協会部長の5人。震災発生直後の被害の様子や避難対応、復興の現状と課題などについて報告し、意見交換した。



田伏清推進協支部長代表（大阪、パルツア事業会）が大会宣言「別項に掲載」を読み上げた。

佐々木大会長から次期大会開催（28年11月24日、25日）の田中政春新潟支部長（長岡三古老人福祉会）へ推進協旗が引き渡され、真壁実行委員長が閉会を宣言した。

ウの目タカ目こちら傍聴席

◎看護強化型特養？

○：平成29年度末の廃止が決まっている介護療養病床。その転換方法を議論している第5回療養病床の在り方検討会で、嶋村好子構成員（慶応義塾大学元教授）が「看護強化型特養」（仮称）への転換を提案し、「えっ、新型特養？」と傍聴者の関心を集めた。

○：介護療養病床の入所者を「自宅・サ高住」と「特養・グループホーム」の2つのグループに分け、訪問看護サービスを組み合わせた介護と医療サービスを同時提供するという。「特養の場合、長期的には医療依存度の高い人の生活の場として看護師がマネジメントする看護強化型特養はどうか」と言う。

○：しかし、他の構成員は「この検討会は介護保険制度改正や介護報酬改定まで議論する場ではない」「介護療養病床に絞って議論すべきだ」と主張したため突っ込んだ議論にはならなかった。厚労省が提案した「医療を内包する類型」と「医療を外付けし、住まいと医療機関を併設する類型」という手取り早い転換で決着する見通しだが、傍聴席から「特養の課題の一つが医療の充実。是非を含め、もう少し聞きたかった」の声も。（植）

看護強化型特養？



(1面から続く)

第1分科会

高齢者施設におけるターミナルケアの考え方とその実際

講師 鳥海房枝氏 (NPO法人メイアイヘルプユー・理事)



第1分科会で講演する鳥海氏

入居前で大切なことは、「死」を特別視せず、本人の意思を最重要とし、今日、死なれても悔いのないケアを心掛けることだ。そのためには開かれた施設運営やターミナル期の知識と判断、家族へのケア、終末期と危篤時の対応などを意識し、継続的に説明して家族が死を受け入れられるようしておく。エンゼルケアは命のバトンタッチだ。

遺体はケアの通信簿、口腔内が汚れていた、おむつかぶれがあったり、股関節や足関節が硬縮してしまつて棺桶がしまらなかつたりしたら、家族はどう思うだろうか。参考になる事例がある。本人のエピソードを写真付きで記録し、死後、請求書と一緒に封筒に入れて遺族に渡した。家族から「ここでこの施設で良かったと言われるよう心掛けたい。

第2分科会

認知症介護

講師 今井友和氏 (栃木県・JA上都賀厚生連かみつが・課長)

認知症介護を行うにあたり、入所者の心の安定を図ることと家族と職員間の情報共有は大切なことである。特に、身体機能の維持及び向上を目指し、環境を整備した上で在宅支援をする場合、情報共有は非常に重要である。

また、職員のストレスマネジメントも重要で、職員一人が抱え込まないよう情報共有し、職員一体となつてチームで対応する体制も必要である。

認知症の高齢者が年々増加している。昨今、介護職には認知症に対する正しい知識と理解が欠かせない。また、適切な介護を提供するため



第2分科会

に、現場でのケアの事例を業界全体に広く伝えていく必要がある。

第3分科会

ノリフティングポリシーについて

講師 篠田明氏 (全国ノリフティング推進協会事務局・理学療法士)



第3分科会

グー福祉用具ではない。考え方や体の動かし方、コミュニケーション、福利用具の活用など様々な要素が必要である。特に職員同士、入居者様、入居者様のご家族とのコミュニケーションは大事な要素である。

介護する側もされる側も、身体面・精神面ともに幸せになれるものでなければと考えている。また、入居者様にはやれることはやってもらう。やれないことは支援する。不安定な部分は何が不安定なのか、どこまでできてどこからできないのか、やれることと支援することを見極めることが必要。自立支援の考えを忘れないことも大切である。

第4分科会

ユニットマネジメント

講師 野方美香氏 (福岡県・梅光園・施設長)

ユニットのマネジメントにおいて必要なのは①理念の浸透②個別ケアのPDCAサイクル③ユニット運営：人的資源、物的資源、財的資源、仕組み作りなどである。法人の理念を基に施設においてケア対応方針を定め同じ方向を向いて、それぞれの職位・職責を遂行していくことが求められる。

また、より良いユニット運営を行なうには、日々の中での気づきを不満や愚痴で終わらせず、課題として改善の取り組みを行なうことが大切である。重度化や人材不足などの時代に合わせ、柔軟な発想による工夫が今後は必要である。



第4分科会

27年度第2回理事会

7議案を承認

11月24日

前、全国研修大会開会前、平成27年度第2回理事会(赤枝雄一会長)が開かれ、上半期の事業計画及び補正予算案など7議案を承認した。



第2回理事会

【第1号議案】27年度上半期事業報告及び補正予算案【第2号議案】全国大会開催地案(新潟(28年度)、静岡(29年度)、沖縄(30年度))【第3号議案】国への要望(職員のスキルアップによる効率的な人員配置基準へなど)【第4号議案】理事の選任(就任・中澤明子氏(愛知、せんねん村施設長))【第5号議案】大会宣言案(1面に全文に掲載)【第6号議案】「実践介護学」出版案(5サイズ、2/3千円。28年9月発行予定)【第7号議案】その他

27年度第1回支部長会

11月23日、仙台市の江陽グラントホテルで平成27年度第1回支部長会(田伏清支部長代表)が開かれ、以下の議案を承認した。



第1回支部長会

【第1号議案】28年度全国大会開催地(案)について【第2号議案】「実践介護学」出版について(案)【第3号議案】28年度地域ネットワーク会開催(案)について【第4号議案】その他

【第1号議案】28年度全国大会開催地(案)について【第2号議案】「実践介護学」出版について(案)【第3号議案】28年度地域ネットワーク会開催(案)について【第4号議案】その他

【実行委員長】佐藤真弥氏(河渡の郷福祉会理事長)

第4号議案では、北海道支部長が大久保幸積氏から亀尾毅氏に交代することが承認された。

総務企画広報委員会

11月23日、仙台市の江陽グラントホテルで平成27年度第17回総務企画広報委員会(栗野裕治委員長)が開かれ、以下の議案を承認した。



第17回総務企画広報委員会

【第1号議案】27年度上半期事業報告及び補正予算案について【第2号議案】28年度地域ネットワーク会開催(案)について【第3号議案】28年度ユニットケア研修スケジュールについて【第4号議案】プライバシーマーク取得について【第5号議案】その他(議案無し)

介護保険委員会

11月23日、仙台市の江陽グラントホテルで27年度第17回介護保険委員会(藤村二郎委員長)が開かれ、以下の議案を承認した。

【第1号議案】今後の国への要望事項について(案)では、「今後、介護報酬が下がり人材不足が予想されるが、職員のスキルをあげることで少ない人数で生産性が上がるような研修や仕組みを提案すべき」との意見が出た。

【第2号議案】消費税の取り扱いは、消費税の引き上げ(税率8%↓10%)の際には、原則課税とし、その上で仕入に係る消費税が還元される仕組みを承認した。

支部便り

福岡支部総会開催

12月7日、福岡支部(牟田和男支部長)は、ホテルセントラーザ博多で総会を開催し、以下の議案について審議し、承認した。(1)26年度事業報告(2)26年度決算報告(3)平成27年度事業計画(4)平成27年度予算(5)その他

また、総会前に、テーマ「介護業界の現状と今後」ユニット型施設の展望」の記念講演(講師・結城康博、徳島大学総合福祉学部教授)とセミナー(講師・藤村二郎、介護保険委員長)の講演が行われた。



福岡支部総会

指導者養成研修了研修

11月12日、大田区産業プラザPiOで、27年度ユニットケア研修指導者養成研修(了研修)を開催した。受講者7名が「ユニットケアの具体的方法」と「情報の活用と職員のサポート及び指導等」をテーマに各自40分模範講義を行い、尾島朱美氏と野方美香氏が講評を行った。

総評として、尾島朱美氏(関東福祉専門学校教育主任)は作家井上ひさしの言葉を引用し「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く伝えてほしい。満足と付加価値を持つてお帰りたいだけのような授業を受講者と一緒に作り上げてほしい。自信を持って前進を」と述べた。



指導者養成研修了研修

今回の研修者は左記のとおり。
※五十音順、敬称略
上田かな(レジーラの丘・施設長、齊藤英輔(留園園・ユニットリーダー)、徳江恵子(しようじゅの里・ケアマネ)、豊島博(椋・副施設長)、補佐、永瀬佳枝(明尼苑副主任)、中村葉子(しようじゅの里三保主任)、山下央(梅香の里主任)

第4期ユニットリーダー研修

11月30日、12月2日、東京(大田区産業プラザPiO)で、12月9日、11日は福岡(リファレンス駅東ビル)で、27年度第4期ユニットリーダー研修を開催し、東京会場15名、福岡会場39名が受講した。

東京会場では1日目の午後の講義「高齢者の生活とその環境」(講師・鈴木みな子日本社会事業大学共同研究員)では、「環境改善によって入居者の生活をより良くできると実感した」「グループワークをすることで第3者の視点も重要だと感じた。自分では気付けないことが多くあった」といった感想が寄せられた。

また同会場3日目は、講師の堀口誠一氏(しようじゅの里三保・統括フロア長)が、「皆さんがこの研修で学んだことを施設に持ち帰ってすぐに実践しようと思っても、思うように進まないかもしれない。でも、焦らずに、そしてやめないうで続けてほしい。変えていこうという気持ちを持たないでほしい。長いスパンで見たら少しずつは進んでいるはずだから」とアドバイスした。



グループワーク



堀口統括フロア長

従来型向け個別ケア研修

12月8日、9日、大田区産業プラザPiOで、従来型・ユニット型施設を対象とした個別ケア研修を開催した。環境を活かした個別ケアを実践するために、「認知症高齢者に配慮した環境支援プログラム(個別ケア版)」を用い、環境づくり支援プログラムの考え方と手法

認知症高齢者への環境支援指針PEAPの考え方、キャプション評価法等を学ぶ。今回は平成28年3月16日、実践事例検討発表及び環境支援の先駆的施設の講義と意見交換などを行う予定。



個別ケア研修



スローガン：“住み慣れた地域で安心して暮らせますように私たちがお手伝いをします”

施設内は「雪月風花」をテーマにした作りとなっていて、トイレなどのマークは職員が考案しました。外部の方が利用することも考慮し、わかりやすく且つ親しみやすくしています。



レリーフが刻まれたフェンス

敷地を囲むデザインフェンスには、構成旧市町村のシンボルフラワーをレリーフとして刻んでいます。



サクラレ福住 外観

【施設の紹介】
昭和56年9月に社会福祉法人長岡三古老人福祉会（田中政春理事長）を設立。57年4月には特別養護老人ホームみしま園を新潟県長岡市に開設しました。
その後、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどを長岡市内に開設。1kmにおよぶ桜並木沿いに、平成27年8月1日、160名が入居可能な高齢者複合施設サクラレ福住（富田幸二施設長）を開設しました。

サクラレ福住は、特別養護老人ホームとショートステイ、法人初となるサービス付き高齢者向け住宅と、1階には地域交流の促進を目的とした地域交流スペースも整備しています。

【交流スペースを地域へ開放】
サクラレ福住の周辺には、3つの町内会があります。集会所がありませんでした。そこで地域交流スペースを地域へ開放し、会議や茶話会、サークル活動などに利用していただいています。

今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。

【売店 R・STORE】
事務所横の売店「R・STORE」は、何度も来て（リピートして）いただけるようにとの思いから命名しました。特に売店で取り扱っている手作りパンは、バスで30分かけて買いに来るファンもいるほどの人気です。



福住に「らあ祭」がやってきた

【交流スペースを地域へ開放】
サクラレ福住の周辺には、3つの町内会があります。集会所がありませんでした。そこで地域交流スペースを地域へ開放し、会議や茶話会、サークル活動などに利用していただいています。

今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。



分かりやすい表示



デザインを考案した統括主任 笠原聡子さん

【富田幸二施設長から】
今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。

【富田幸二施設長から】
今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。

【富田幸二施設長から】
今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。

【富田幸二施設長から】
今年10月21日には、NPO法人「らあ祭新潟」の協力を得て県内のラーメン店12店舗が参加する「らあ祭」を開催しました。ラーメンは無料で、ご利用者、子供たち、地元の方々からも大好評でした。



手作りパンを購入する赤枝眞紀子事務局長



要望に応じ品揃えができる売店

〒940-0034 長岡市福住 2丁目1番7号 TEL: 0258-35-5590 FAX: 0258-35-5591

【特養】定員 80名

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

【事業所内に保育所設置】
憲章会・東雲の丘（沖繩）
理事長 石島衛・施設長 石島薫
社会福祉法人憲章会は、当法人が設置運営する各事業所の職員の「働きやすい職場・働き続けられる職場」を目指して「しのみめ事業所内保育所」を平成28年4月から設置することになりました。19人定員の小規模保育所で、0歳児（2か月）から2歳までの乳幼児が対象になります。

社会福祉法人 黒潮会
望洋の郷（宮崎県）
施設長：井手 明利

当施設でも、入居者様の「暮らしの継続」を心がけて日々取り組んでいます。今回はある入居者様の施設での暮らしを入居者様の言葉でご紹介します。

「私は、食事や旅行が大好きです。いつも自分の過ごしたいように毎日暮らしています。私はリウマチがありますが、何不自由なく過ごせています。パソコンもインターネットも自由に利用できるので、趣味のビデオカメラで風景を撮ってDVDを作成したり、アマゾンで食品を購入したりするなど自分の思い通りに生活できています。入居前は少し不安でしたが今では我が家以上に安心して暮らしています。昨年は職員と一緒に長崎へ1泊旅行をすることができました。中学時代に行けなかった修学旅行を5年ぶりに実施できたことが一番うれしかったです。」（生活相談員 金丸達也）



初詣



思い通りに安心して過ごせる居室



55年ぶりの修学旅行が実現！



パチンコ出るかなー

社会福祉法人 梓友会
みくらの里（静岡県）
施設長：川島 優幸

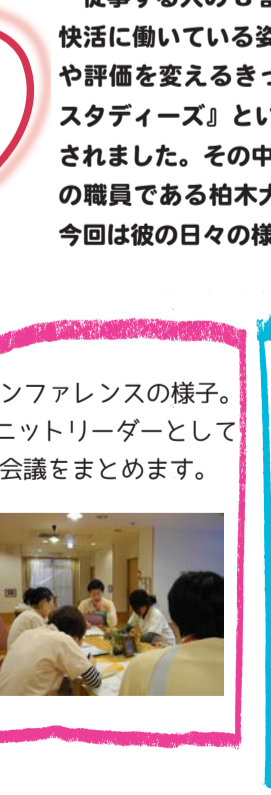
当法人は全国20の社会福祉法人が介護の仕事の理解を促すために共同で実施している「介護男子スタディーズプロジェクト」に参画しています。

従事する人の8割が女性であるという介護業界で、男性が快活に働いている姿を発信し、社会の「介護」に対する概念や評価を変えるきっかけになればという狙いで、『介護男子スタディーズ』という本が20法人が共同出版して自費出版されました。その中で当法人のユニット型施設「みくらの里」の職員である柏木大行ユニットリーダーも登場しています。今回は彼の日々の様子をご紹介します。

（生活相談員・神谷育美）



口腔ケアの様子



カンファレンスの様子。ユニットリーダーとして会議をまとめます。



メニューを説明しながら配膳します。

お一人お一人に食べられるご飯の量を伺いながら盛り付けます。

「口腔ケアの様子」の写真は介護男子スタディーズ事務局の了解を得て掲載しております。